

香西地区港湾緑地植物管理要綱

(1) 一般的事項

- ① 植物管理業務は、以下に記載するもののほか、別添 2「樹木等管理業務の基準」を参考に実施すること。また、パークゴルフ場の芝生管理については、別添 3「パークゴルフ場芝生管理要項」を参考に実施すること。なお、これらの基準は、その目安を示すものであり、植物の良好な状態を維持できるように、指定管理者が適切な作業方法、頻度等を判断して実施すること。
- ② 植物の管理に当たっては、個々の植物の特性をとらえ、細心の注意と愛情をもって植物に接し、除草、灌水、剪定、刈込み、病虫害防除、施肥等の作業を適切な時期に効果的な方法で実施すること。
- ③ 必要に応じて、樹木医等の協力を得ながら、植栽基盤の管理、剪定、病虫害防除等の作業を適切に実施すること。
- ④ 管理作業は、渇水時等の社会情勢や施設周辺の施設等への影響にも配慮の上、実施すること。
- ⑤ 管理作業の実施に際しては、作業員の安全に努めるとともに、施設の利用者への配慮と安全を図るため、注意標識の設置や作業区域をバリケードで囲む等の必要な措置を行うこと。
- ⑥ 除草剤は、使用しないことを原則とするが、やむを得ず使用する場合は、必要最小限に留め、農薬取締法等の関連法規やメーカーの使用安全基準・使用方法を遵守して、人畜の安全及び樹木等への薬害防止に十分留意すること。
- ⑦ 病虫害防除については、病虫害の早期発見に努め、できる限り薬剤を使用しない剪定防除等により被害拡大を防ぐものとするが、被害が広範囲に及ぶ場合は、病状や害虫等の被害状況をもとに、その効果と薬害を十分勘案し、使用薬剤を決定すること。
なお、その使用にあたっては、農薬取締法等の関連法規及びメーカーの使用安全基準・使用方法を遵守するとともに、使用量の減量化に努めること。
- ⑧ 管理作業によって発生した枝葉などについては、原則として、チップ化等により施設内でリサイクルするものとし、リサイクルが困難な場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）に基づき適正に処理すること。
- ⑨ 危険防止のため、枯損木や枯枝の早期発見と除去を行うこと。

(2) 樹木管理

① 剪定、刈込み

ア 樹木の剪定は、樹種の特性に応じ、最も適切な時期と方法で実施することが必要である。このため、剪定の時期は、樹種や樹木の形態により異なるが、基本的には、強度の剪定は樹木の休眠期から萌芽前の冬季から初春とし、夏期は繁茂しすぎた枝葉を対象とした軽剪定に留めること。

イ 剪定の実施にあたっては、自然樹形を尊重した自由形仕立てとし、ぶつ切りは行わないこと。

ウ 刈込みは低木や中木の樹冠を刈り、整形・縮小させる作業であり、樹木表面の枝葉を密にし、美しさを強調し、通風、採光を良くするとともに、病虫害に対する抵抗を強め

るために行うこと。

エ 刈込み頻度は、新梢が生長を休止する 5～6 月頃と土用芽が生長を休止する 9 月頃の 2 回程度が一般的であるが、樹勢や萌芽力の強さにより、年 1 回型、年 2 回型、年 3 回型、多数回型に分けられる。なお、花木類の剪定・刈込みは、花芽の分化時期や着生位置に注意すること。

② 除草

ア 除草時期は、雑草の種類により異なるが、基本的には、繁殖を効果的に抑制するため、それぞれの結実前に行うこと。

イ 除草の回数は、雑草の繁茂状況に応じて適宜行う必要があるが、少なくとも、発生期の春、夏、秋に各 1 回、年 3 回程度は行うこと。

ウ 除草は、既存植物を傷めないように雑草を根ごと除去するものとし、機械による除草の場合は、根際から除去すること。

③ 施肥

土壌中の養分の改良は、基盤管理における有機物の混入により、永続的で健全な土壌環境の形成を図ることを基本とするが、植物の活性を維持していくため、一定の施肥を必要とする場合が多いことから、施肥に当たっては、樹木特性や施肥の種類（元肥、追肥）を考慮し、最も効果的な方法で行うこと。

④ 病虫害防除

ア 樹木の健全な育生や美観の保全、植栽機能の確保のため、病虫害防除を適切に実施することが必要であり、発生予防に万全を期すとともに、発生した場合は速やかに対応し、被害の拡大を最小限に留めることが大切である。このため、植栽基盤の管理を着実に行之、樹木が健全に生育するための基礎条件を整え、剪定、刈込み、除草、肥培管理の作業を通じ、植物の生育活性を高めることにより、病虫害への抵抗力を高める必要があること。

イ 病虫害の発生が一部に限られる場合は、被害箇所の枝葉を切除し、焼却することにより、被害拡大を防ぎ、被害が広範囲に及ぶ場合は、薬剤散布により防除を実施するが、農薬取締法等やメーカーが定める安全基準などを遵守し、薬剤使用量についてもできる限り少なくすること。

⑤ 枯損木・支障木

ア 枯損木については、事故防止の観点から速やかに除去すること。

イ 生育不良樹木や台風等により倒伏した樹木については除去することを前提とするのではなく回復の可能性があるものについては、倒伏起こしや樹勢回復等の治療の実施を考慮し、真にやむを得ない場合に限り伐採除去を行うこと。

ウ 施設に何らかの支障を来している樹木については、原則として移植により処置すること。

エ 樹木の補植が必要な場合は、枯損等に至った原因をよく把握し、県に報告の上、補植金額の総額が百万円未満の場合は、適切な時期に植栽を行うこと。

(3) 芝生地・草地管理

① 除草

ア 雑草は、放置しておくと芝生等を被圧し、生長を抑制するだけでなく、通風が悪くな

り、病虫害の原因ともなり美観面からも好ましくないので、雑草の結実前等の適切な時期に集中して抜取除草を実施すること。

イ 除草剤は、原則として使用しないこととする。

② 刈込み

ア 刈込み回数は、芝草等の生長状況により適宜実施することが望ましく、生長が盛んな時期に実施すること。

イ 刈込みは、刈り残しやムラが生じないよう均一に行い、刈込み後は、刈芝等を所定の場所に集積し、適正に処理すること。

③ 施肥

ア 根系の活動期にあわせ初春から初夏の芽が出揃う頃を主とし、やや窒素分の多い有機質肥料を施し、その後は生育状態を見て、肥料が不足しているようであれば速効性の化成肥料を施すこと。

イ 刈込み後は、できる限り施肥を行うことが望ましい。さらに冬の寒さに対する抵抗力をつけ、来春の生長をよくするため、秋期にリン酸、カリ分を多く含んだ遅効性の有機質肥料または緩行性の化成肥料を施すこと。

④ 病虫害防除

ア 芝生は、病虫害が発生すると被害範囲が拡大しやすいことから、十分な予防処置の実施と病虫害が発生した場合には早期の処置を施すこと。

イ 病虫害の予防処置として、刈込み、灌水、除草、目土かけ等を適切に行い、病虫害への抵抗力を高めること。

ウ 過度の施肥は、病気発生の原因となり易いため、特にさび病、ブラウンパッチの原因となる窒素肥料の過多を避けること。

⑤ 目土かけ、エアレーション、補植

必要に応じ、目土かけ、エアレーション、補植等を適切に行うこと。

(4) 灌水

灌水は気象条件、土壌状況により、無駄なく、かつ、時機を失しないように行うこと。